



ごあいさつ

開倫塾は、お陰様で来年秋に創立 30 周年を迎えます。開倫塾では、開塾以来、塾長である私や各校舎の校舎運営の責任者である校長、クラス担任はじめ様々な立場の者が、保護者の皆様に折に触れて教育情報をご提供させていただくと同時に、自らの考えを述べさせていただいております。

この開倫塾塾長通信は、毎月初旬に発行される「開倫塾ニュース」の巻頭に書かせていただく「巻頭言」だけでは、塾生、保護者、地域社会の皆様に十分お伝えできなかったものをお伝えするものです。今回は資料 1 ～ 資料 7 までとなります。毎回非常に長いものになって恐縮ですが、皆様の御参考になるものもあると存じますので、是非最後まで御熟読下さい。もし可能であれば、色のついたボールペンを手にして、参考になるところには下線(アンダーライン)を引きながらお読み下さると幸いです。

開倫塾自体やこの内容について御意見・御感想・御批判がある場合には、

開倫塾塾長室 e-mail:jukuchoshitu@kairin.co.jp、

FAX : 0284-73-1520、TEL : 0284-73-7812、

〒 326-8505 足利市堀込町 145 開倫塾塾長室

まで、御遠慮なく御連絡賜りますようお願い申し上げます。

## 資料 1

NHK ラジオ「徹底トレーニング英会話」担当の岩村圭南先生がお書きになった「英語をめぐる冒険」の最後のメッセージを、まずは声を出して何回もお読み下さい。素晴らしい内容で、英語の勉強の上で非常に参考になります。

岩村圭南著「英語をめぐる冒険」NHK 出版 2008 年 5 月 25 日刊を読む

### 目指せ My English

#### (1) 日々の努力

- ・ 毎日努力すれば毎日上達します。  
Daily effort brings daily improvement.
- ・ 日々のちょっとした努力が驚くほどの効果を生むのです。  
A little effort every day will do wonders.
- ・ 努力しなければ何も得られません。  
Nothing comes without effort.

#### (2) 空き時間

- ・ 空き時間があるときは必ず練習しましょう。  
Whenever you have spare time, be sure to spend it practicing.
- ・ 英語力をアップさせるために、空き時間を活用しましょう。  
Take advantage of your spare time to improve your English skills.
- ・ 空き時間をもっとうまく活用したらどうですか？  
Why don't you put your free time to better use ?

#### (3) 言い訳

- ・ もう言い訳はいりません。練習すればいいのです。  
No more excuses. Just practice.
- ・ 言い訳をしていたら、何もできません。  
Excuses will get you nowhere.
- ・ 忙しさを練習しない言い訳にははいけません。  
Don't use your busy schedule as an excuse not to practice.

#### (4) テキスト

- ・ いつでもテキストを持ち歩くようにしましょう。  
Keep your textbook with you all the time.
- ・ テキストを持っていれば、空き時間が無駄になることはありません。  
Spare time will never go to waste as long as you have your textbook with you.
- ・ 時間があるときはいつでも、テキストを開いて練習しましょう。  
Whenever you have time, open your textbook and practice.

(5)集中

- ・練習するときには集中しましょう。  
Give your practice your full attention.
- ・集中力が今のあなたには必要なのです。  
Concentration is what you need now.
- ・1分間の集中練習は思っている以上に効果があるのです。  
One minute of intensive practice is more effective than you think.

P.229 ~ 230

**焦らず、悩まず、諦めず**

<3つの「ず」>

(1)焦らず

少し練習したくらいで、すぐに結果が出ると思っははいけません。焦ってもいい結果は出ません。練習すれば間違いなくあなたの英語は上達します。焦らず、じっくり腰を据えて、こつこつ地味な努力を続けましょう。

(2)悩まず

この方法でいいのかなと悩む。しかし、悩むくらいなら練習しろ、いや、悩みながらでも練習しろ、と私は言いたいのです。練習の仕方がわからない、と悩んでいるのなら、まず、手元にある英語のテキストに載っている英文を毎日音読して覚えましょう。それでも続ければ英語力はつきます。悩んでいるだけでは、何も解決しないのです。

(3)諦めず

せっかく始めた練習を途中で投げ出すのが一番よくありません。短時間でもいいのです。とにかく毎日続けましょう。継続は力なり。これまでに何度も耳にした言葉だと思えます。途中で投げ出さずに、練習を続ければ、きっとあなたの英語は上達します。忘れないでください。練習は決してあなたを裏切らないのです。

この「3つのず」を心に留め、さあ、今日も英語のトレーニングをしましょう！もし気持ちが萎えそうになったら、「焦らず、悩まず、諦めず」と何度か唱えてください。またやる気が出てくるはずです。英語トレーナーとして私も応援しています。

P.234 ~ 235

(コメント)

「練習、練習、また練習」が、英語を自分のものにすると私も確信します。まずは、圭南先生が命を懸けて執筆中の NHK ラジオ「徹底トレーニング英会話」のテキストを「音読練習」してみましよう。

(林 明夫)

- 2008年7月2日 -

## 資料 2

私は、CRT ラジオ栃木放送で毎週土曜日 9:15 ~ 9:25 に「開倫塾の時間」という番組を担当して、22 年目に入ります。今年の 3 月 8 日放送の速記録ができ上がりましたので、是非お読み下さい。資料 1 の岩村圭南先生の文章に、猪口邦子衆議院議員の英語の勉強方法を重ね合わせると、どうしたらよいかおわかりになると考えます。

CRT 栃木放送 『開倫塾の時間』

2008 年 3 月 8 日(土)放送内容

開倫塾 塾長 林 明夫

### 勉強の仕方を考える

- 音読と書き取りを繰り返して暗記し、学習効果を上げよう -

#### 1. はじめに

開倫塾塾長の林明夫です。お陰さまで、この放送は今年で 22 年目に入りました。皆様が熱心に聴いて下さっているお陰であると思います。心から感謝申し上げます。高校入試が終わりましたが、皆さんよく勉強されたことと思います。当塾のある先生は、受験生の本番直前の姿はまるで観音様のようによく見えておっしゃっていました。皆さんそのくらい熱心に勉強したということですね。

さて、この番組では、21 年前よりずっと、「どのようにしたら勉強ができるようになるか」というお話をさせていただいております。

#### 2. 英語の勉強方法を考える - 猪口邦子さんから学ぶ -

(1) 私は、国会議員としては厚生労働委員会の委員長をやらせて御活躍なさっている茂木敏充衆議院議員を存じ上げていますが、もう一人、素晴らしい国会議員の方を知っております。その方は、以前国連の大使をなさっていた猪口邦子さんです。猪口さんとは、昨年シンガポールで開催された東アジアに関する世界経済会議で親しくお話をさせていただいて以来、いろいろ勉強させていただいております。猪口さんは、昨年 10 月 12 日発行の「日本経済新聞」にコラムを書かれ、それを私に送って下さいました。猪口さんについて少し紹介させていただくと、国会議員の前は上智大学の教授をなさり、また、軍縮(軍備縮小)の国連大使を務められた方です。

(2) そのコラムでは、10 代前半にブラジルのサンパウロにあるアメリカン・スクールに通われた時のお話を紹介しています。英語がわからなければ授業がわからないので、必死に、それこそ死に物狂いで英語を勉強なさったそうです。この世を諦めたつもりで、自らに修練を課したそうです。

(3) その勉強方法は、音読(声を出して読むこと)を繰り返すことと、声に出して読んだことを暗記(全部覚える)ことの 2 つに尽きるということです。例えば、単語を覚えるときは、カードやノートをいくつも作り、毎日せっせと声に出して読んで書く。一度覚えた単語も、毎日最初から繰り返す。意味を知り、綴(つづ)りはアルファベットをそのまま覚える。「りんご」は「a.p.p.l.e」のようにです。この英語の勉強の仕方は、とてもおもしろく、ためになるそうです。

- (4) 単語カードを作り、新しい単語も一度覚えた単語も繰り返し繰り返し音読し書く練習をして、使える単語を1つでも多くすれば、まずは本が読めるようになります。単語の次は、定型の文を丸暗記します。すると、英作文が書けるようになります。応用をきかせるには、頭に収まっている単語を入れ替えて当てはめればよいのです。
- (5) この方法は、いろいろな場面で活用できます。例えば、軍縮大使になった時は、このやり方で国際法のいろいろな条文をほぼ丸暗記したそうです。相手国との交渉時に、交渉相手が「15条22項は...」と言いながらファイルを開いてその条文を探しているときに、それを誦(そらん)じている猪口さんはすかさずその条文を口にする。すると、心理的に優位に立つことができたとのことです。
- (6) 国会議員となった今は、外国からお客様をお呼びすることが多くなったそうです。毎日のように英語を使って仕事をした軍縮大使の時と比べ、英語力が少し鈍ったとお感じになられた猪口さんは、朝の十数分を使って、英字新聞のヘラルド・トリビューン紙の一面の記事を音読しているそうです。日本語と英語とでは、話すときに使う筋肉が違い、表情や身振り・手振りも違うので、音読は筋力トレーニングにもなるそうです。
- (7) 論語にも、「学而時習之、不亦説乎(まなびて ときに これを ならう、また よろこばしからずや。)」ということばがあります。「時習之(ときに これを ならう)」とは、復習することです。つまり、勉強したら繰り返し復習することが大事だということです。

### 3. おわりに

- (1) この衆議院議員の猪口邦子さんの勉強方法は、すべての科目に通じます。まずは音読して、次に、書いて書いて暗記するのが効果的です。世の中には成績のよい方と成績の奮(ふる)わない方がいますが、両者の差はこれだけです。どちらも同じ話を聴いているのですが、成績のよい方は繰り返し暗記をします。一方、成績のかんばしくない方は、学校の授業だけでおしまいになっています。これで、偏差値は20も30も違ってくるのです。偏差値が70ある人は、ほとんどの高校、大学に受かります。ところが、40くらいの方は、受かる学校が減り、それによって選択肢の少ない人生を歩むこともあります。
- (2) 勉強をして成績を上げれば上げるほど、偏差値を上げれば上げるほど、選択肢の多い豊かな人生を歩むことが可能になります。ですから、すべての勉強において、十分「理解」したことについては、音読、書き取りを繰り返し、暗記することに徹して下さいね。

以上

- 7月10日訂正 -

(林明夫)

資料 3

CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」の 7 月 19 日放送のレジュメ(綱要)です。「受験生の夏休みの過ごし方」を示したものです。開倫塾の塾生のうち受験学年の皆様には、クラス担任を通じて、この内容が紹介されています。受験学年以外の塾生の皆様にも、御参考になると思います。

CRT 栃木放送『開倫塾の時間』  
2008 年 7 月 19 日(土)放送内容

開倫塾 塾長 林 明夫

受験生の夏休みの過ごし方を考える  
- 「3 大練習」は、不可能を可能にする -

1 . はじめに

- (1) 夏休みの過ごし方は人によって異なる。
- (2) 受験学年と非受験学年とによって異なる。
- (3) 今日は、来年 1 月～ 3 月に入学試験を控(ひか)えた受験生の夏休みの過ごし方を考える。

2 . 受験生の夏休みの過ごし方

- (1) 受験生としての「自覚」を持つこと。

学習の成果は、本人の自覚によって決定する。

本人がよく「自覚」をしていれば、必ずよい成果は出る。

- (ア) 何のために勉強しているのか
- (イ) 自分の目標は何なのか
- (ウ) 現在の實力はどのくらいか
- (エ) この「差(GAP)」はどのくらいあるか
- (オ) どのようにしたら、この「差(GAP)」を縮めることができるか

自分の強みはどんどん伸ばす。

自分の改善点はどんどん改善する。

素直な心になって、自分の「強み」と「改善点」を「直視」すること、「自覚」することが大切。

「心構え」をしっかりと持つこと。

(2) 「学習の3段階理論」をふまえた学習を

「学習の3段階理論」とは、学習を3つの段階、つまり「うなるほど」とよくわかる「理解」する段階、よくわかった内容を身に付ける「定着」の段階、更には合格点が取れるようになる「応用」の段階に分けて、それぞれに合った勉強をすると、学習効果が飛躍的に高まるという考え方を言います。

「うなるほど」と十分「理解」していない内容をいくら覚えようとしても、また、暗記しても、あまり意味はない。まして「理解」や「定着」もしていない内容について「応用問題」をいくらやっても得点力は身に付かないという、ごく当たり前のことを言い表したのが「学習の3段階理論」。

(3) 予備校や学習塾での夏期講習の講義、授業、自学自習で「うなるほど」と十分に納得すること、つまり「理解」することが大事。

8月前期までの夏期講習やお盆特訓、8月後期の夏期講習に申し込んだ人は、必ず全日程の授業に休むことなく出席をして、十分「理解」して下さいね。

講習会でよく終わらなかった内容は、その日の内に自分でしっかりと勉強して十分に「理解」してしまいましょう。よくわからないところがあれば、翌日、予備校や学習塾の先生に遠慮なく質問して、わからないところがないようにしましょう。

(4) 講習会の授業や自分で勉強してよくわかった、つまり「理解」した内容は、その日の内に「定着」のための作業、「3大練習」を確実にし身に付けてしまいましょう。

夏休みに、大幅にテストの点数つまり偏差値を上げたければ、偏差値を5以上確実に上げたければ、講習会で勉強した内容を完全に身に付けることをお勧めします。

(ア) ノートや講習会の教科書(テキスト)を「音読練習」することで、大切なことを何も見ないでスラスラ言えるようにすること。

(イ) 大切な語句やよく書けなそうな語句を、正確に楷書で書けるようになるまで「書き取り練習」すること。

(ウ) 解き方がよくわかっていた問題について、もう5～6回「計算・問題練習」をすることで、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出せるまでにしておくこと。

この「定着」のための「3大練習」こそが、受験生が夏休みに最も取り組むべき内容です。

(ア) 夏期講習会に参加したり、自分で勉強することで、十分「理解」をすることが第1。ただ、これだけでは偏差値はほんの少ししか上がらないのが現実。偏差値5は上がらないのが現実。

(イ) 偏差値を5以上確実に上げるのに大事なことは、講習会で「理解」した内容を「3大練習」で「定着」させること。

(ウ) 「3大練習は、不可能を可能にする」。夏期講習会に参加してよく「理解」した内容について、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の開倫塾の「3大練習」を繰り返し行えば、偏差値5は確実に上がる。全科目偏差値5アップは、人生の選択肢を大幅に増やす。

### 3. おわりに

#### (1) 健康第一

受験学年でも大切なのは、健康、つまり心の健康と身体の健康。

(2) 暴飲暴食はしないこと。夜は 12 時前には床に就くこと。朝は 7 時前には起床。「早寝、早起き、朝ごはん」を心掛けること。朝食で、ごはんやパン、コーンフレークなどの炭水化物を摂らないと、頭の回転がよくなるという考えもあります。

(3) ストレスをためないこと。1 週間に 1 回は楽しいことを。

音楽を聴く

身体を動かす(スポーツなどで)

美術館や博物館、公園など社会教育施設を訪問する

保護者の許可を得てから、映画やコンサートなどにも行ってみる

ただし、「行く場所」「誰に会うか」「帰宅時間」、この 3 つだけは保護者に伝えること。

以上

開倫塾塾生の皆様へ

(1) 以上は、毎週土曜日の朝 9 時 15 分から 25 分までの 10 分間、CRT ラジオ栃木放送から放送されている「開倫塾の時間」の 7 月 19 日(土)の放送内容のレジュメ(概要)です。

(2) ここに書いてあることは、本当のことです。この夏偏差値を 5 以上上げることは可能ですが、そのためには、講習会に出てから、その日に「理解」した内容を「練習、練習、また練習」をして完全に身に付けなければなりません。それには、どんな人でも 3 ~ 6 時間の自習時間が必要です。

(3) もし、家で 3 ~ 6 時間の勉強時間を確保できない方には、開倫塾の空いている机・いすの無料利用を認めます。保護者の承諾を得た上で、開倫塾の校長先生や担当の先生にご相談下さい。

(4) この「学習の 3 段階理論」は、上級学校に進学してからも、また、社会に出てからも役に立つ勉強の方法です。ビジネスマンの勉強の方法としても紹介されています。

(5) CRT 栃木放送「開倫塾の時間」は、「効果の上がる勉強方法」をお伝えし始めて 22 年目に入ります。是非お聴き下さい。また、この番組の速記録は、「開倫塾」のホームページ林明夫のコーナーに順次掲載中です。是非ご覧下さい。



#### 資料 4

開倫塾では、7月中旬に小学校5年生以上の全塾生に対して、進学希望校調査を実施致しました。目標とする学校を明確に決定したら、あとは「自覚」を持って突き進むだけです。教育の成果は、「学習者本人の自覚」と「教師の力量」によって決定されます。

「自覚を促す」ことも大切な「教師の力量」と考えますが、何よりも本人の「気持ち」が大切です。希望校を1日も早く決め、自覚を持って毎日を過ごしていただきたいと思います。

CRT 栃木放送『開倫塾の時間』

2008年4月19日(土)放送内容

開倫塾 塾長 林 明夫

### 合格を果たすための方法を考える

- 合格は、受験生としての自覚を持つことで決まる -

#### 1. はじめに

開倫塾塾長の林明夫です。

今回は、合格・不合格は何で決まるかという受験の話をさせていただきます。

高校受験、大学受験はもちろんのこと、私立中学校受験や公立の中高一貫校受験が盛んです。開倫塾には、1400名の中学3年生が学んでいます。全員が希望する高校に合格できればよいのですが、そうでない方も時々います。当塾では、年度末に、中3生一人ひとりの詳細な報告書を書いてもらっています。書くのは、各校舎の校長先生・担任の先生で、それらをもとに次年度も同じことのないように反省・検討を加えています。

#### 2. 受験生としての自覚を持つ時期と方法

(1)合格するのは、受験生としての自覚のある方です。一方、うまくいかなかった方は、はっきり言わせていただくと、自覚が足りません。では、いつ頃から自覚すればよいのでしょうか。大学への進学を予定している高校生の方は、高校3年生になってから自覚を持ったのでは遅いです。相当勉強しなければいけませんから、高校2年生の今頃、つまり4月頃に受験生としての自覚を持つと、ほとんどの大学に合格できます。

(2)中学生の場合は、入るのが易しい高校については、中学3年生の今頃からでもよいかもしれませんが、しかし、難しい高校であったり、また、自分の学力がその高校の合格レベルまで至っていないときは、中学2年生の今頃から受験生としての自覚を持って下さい。2年間かければ、どの高校にも合格できます。

(3)小学生の私立中学校受験についてもお話します。栃木県内の私立中学校入試は驚くほどは難しくありませんし、入試の実施される11月～12月頃までにはまだ7～8か月もありますので、きちんと勉強するというのであれば、6年生の今頃からでも大丈夫だと思います。ただし、首都圏にある非常に難しい私立中学校受験を予定している場合は、小学校4年生くらいから、本人も保護者も相当勉強しないと、なかなか合格は困難です。

(4)ですから、できれば私立中学校や中高一貫校受験は5年生から、高校受験と大学受験は中学・高校の2年生から、自覚を持って受験勉強を始めるのが望ましいと言えます。2年間かければ力が相当つきますので、受験の2年前から勉強に取り掛かることを、私はお勧めします。高校3年生、中学校3年生、小学校6年生になると、本番までは7～8か月しかありません。一所懸命にやればある程度のところまではいきますが、皆も同様にやっていますので、合格はかなり難しくなります。最後の頑張りを頼りにするのではなく、早目早目に着手していただくと有難いです。

(5)どのようにして自覚を持ったらよいかというと、一番簡単なのは、どこの大学、高校、私立中学校、中高一貫校を受けるのかということを確認にすることです。「私は 校に合格したい」という具体的な学校名を挙げることです。具体的な学校名を念頭に置いて勉強するのと、そうでないのとでは、効果のあらわれ方がずいぶん違います。ですから、「 校に行きたい」という意欲を持って下さい。

(6)また、その学校に合格するためにはどのくらいの成績が必要かということは、事前にかなりわかります。そこで、現在の自分の成績と比べて、どのくらいのギャップ(差)があるかを認識し、それを埋める努力をすることも大事です。差、具体的には偏差値がどのくらい足りないのか、上げるにはどうしたらよいか、上げ方はいくらでもありますので、まずは自覚することです。

### 3. おわりに

これまでの話をまとめると、

できれば本番の2年くらい前から、受験生としての自覚を持つ。

具体的な学校名を念頭に置く。

成績をどのくらい上げれば合格できるのか、上げなければならない成績の幅を具体的に自覚する。

となります。

これがしっかりできれば、大体のところは合格できます。頑張りましょう。

以上

資料 5

「開倫塾ニュース 2008 年 9 月号巻頭言」に加筆したものを掲載させていただきますので、恐れ入りますがもう一度御熟読下さい。

学校や開倫塾の授業でよく「理解」した内容について、「3 大練習」を時間をかけて十分行いさえすれば、誰でも簡単に偏差値 60 まではいくのに、なかなかそうはならない。これは、スポーツも同じで、いくらコーチからよいやり方を耳で聞いても、トレーニングをして身に付けなければ、練習試合にも出られません。まして本番の試合に出るどころではありません。

この文章は、夏期講習会初日の開講式に、中学 1 年生以上の夏期講習会参加者全員に配付したものです。かなり書き加えましたので、塾生の皆様ももう一度お読み下さい。

2008 年度開倫塾夏期講習会  
開講式資料

2008 年 7 月 22 日

### 夏期講習で偏差値を 5 以上アップさせるには

- 授業で「理解」した内容を「3 大練習」で「定着」させ、偏差値 5 以上アップに結びつけよう!! -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：いよいよ夏期講習に入りました。夏期講習会を通じて、1科目でも多く偏差値を5以上アップさせたいのですが、何かよい勉強方法はありますか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)あります。まずは、開倫塾の先生の授業をよく聴き、講習会用テキストを「うんなるほど」と十分に「理解」して下さいね。

時間のある人は、講習会用テキストを「予習」して下さい。自分の力でテキストをざっとやってみる。テキストを自分の力で勉強して、よくわからない単語や語句、内容は、辞書や参考書、学校の教科書などで調べてみる。それでもわからないことは何かを予(あらかじめ)めはっきりさせてから、開倫塾の授業に出席する。「予習」は、「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」です。ただ、あまり無理をしないで下さいね。

(2)「欠席」や「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「おしゃべり(私語)」、「携帯」、「ゲーム」、「ボーッとしていること」などがあると、いくら開倫塾の先生が熱心に授業をしても、皆さんは「うんなるほど」と十分に「理解」することはできません。そのようなことがないようにして下さいね。特に「おしゃべり(私語)」は、他の塾生の「理解」の妨げになりますので、開倫塾では「授業妨害行為」と考えて「退塾処分」となります。十分注意して下さいね。

(3)授業中は、先生の目を見ながら全神経を集中して、先生の説明を一語一句聞き漏らさないことで「理解」に努めて下さい。必要なことは、どんどん「ノート」にメモを取り続けて下さい。授業に集中できること、必要なことはメモを取り続けることができることは、大切な「能力」です。

「授業に集中する能力」と「メモを取り続ける能力」を身に付けることは、「理解」の大きな助けとなります。

(4) 講習内容について、開倫塾の先生の授業をよく聴き、十分「理解」し、必要なことをメモし続ければ、その科目は誰でも偏差値 45 以上を取れます。偏差値 45 以下の科目は、授業に熱心に出席して、まずは講習内容の完全「理解」と「ノート取り」に努めて下さい。よくわからないことがあれば、開倫塾の先生に遠慮なく質問して下さいね。

(5) 「語句」の意味がわからないときは、「辞書」の使い方を身に付けた上で、「辞書」をどんどん引き、その「意味」をノートに記録しておきましょうね。科目によっては、「学校の教科書」にも、それは何のことか意味が書いてありますよ。「学年別の参考書」も、よくわからないことを「理解」するのにとても役に立ちます。調べたことは、ノートに記録(メモ)しておくことをお忘れなく。記録(メモ)できることも大切な能力です。

(6) 授業直後に、テキストや授業中に取った「ノート」をもう 1 ~ 2 度読み返すことは「理解」を深めます。あとで勉強しやすいように、「ノート整理」もその時にやってしまいましょう。

(7) 偏差値が 45 以上の人も、今お伝えしたような勉強方法で「理解」に取り組んでいない場合には、この通りやるだけで、偏差値が 5 以上上がることがあります。しっかりと学校や開倫塾の授業に取り組むこと、よくわからないことははっきりさせてから授業に臨むこと、授業後に、語句の意味を確かめたりしながら「ノート整理」をすることは、偏差値 45 以上の人の偏差値大幅向上に繋がります。

Q : それではお聞きしますが、偏差値を50以上にするにはどうしたらよいのですか。

A : (1) 開倫塾の夏期講習で、一度「うなるほど」と十分「理解」したことを、つまり、その日にやった夏期講習会のテキストと授業中に取ったノートをゆっくり声を出して読むこと、「音読」することです。英語、社会、国語、理科、数学、すべての科目について、声を出してゆっくり読むこと。その日の授業を思い出しながら、テキストとノートを何回も何回も声を出して読むこと。声を出して読みながら、大切なところは少しずつその場で覚えるようにしましょう。

(2) その日にやったことの大半を覚えられたら、次に、夏期講習の初日にやったところからもう一度、声を出してゆっくり読んでみましょう。このように、毎日、毎日、その日にやった開倫塾の講習会用テキストとノートを大きな声を出してゆっくり読み、大切なことは大体覚える。それが終わったら、夏期講習会の初日から今日までのテキストとノートをもう 1 ~ 2 回声を出してゆっくりと読み、大切なことは覚える。覚えるというのは、大切なことはスラスラと口について正確に言えるまでにすることです。この音読のトレーニングを「音読練習」と言います。

(3) このようなやり方で、開倫塾の夏期講習の授業で一度「うなるほど」と「理解」した内容について、「テキスト」と「ノート」を用いて「音読練習」をし、大切なことは口について正確にスラスラ言えるようにすれば、誰でも偏差値は 50 以上取れます。

(4) 偏差値 50 以下の科目は、大体「うなるほど」と「理解」はしていても、「音読練習」が不足しているために、大切なことが口について正確にスラスラ言えない、つまり十分に身に付いていないのです。ぜひ、「音読練習」をして下さいね。この「音読練習」は、どこでもできます。「テキスト」と「ノート」を手放さず、短い時間を活用して「音読練習」を繰り返し、「偏差値 50 突破」を図って下さいね。

(5) 偏差値 50 以上の人でも、この「音読練習」を十分にしていない人は、ぜひ確実に行って下さい。テキストやノートの最初のページから、今日勉強したところまで、毎日のように「音読練習」をすると、今まで習ったことのすべてが正確に定着するため、頭の回転がどんどんよくなり、偏差値も上がります。偏差値 65、70 以上の人も必ず「音読練習」はして下さい。

Q：偏差値50突破の鍵(かぎ)は、「音読練習」ですか。それでは、またお聞きしますが、偏差値55を突破するにはどうしたらよいのでしょうか。

A：(1) 一度「うんなるほど」と十分「理解」した開倫塾の夏期講習用テキストや授業中に取ったノートの内容を「音読練習」し、スラスラ口について正確に言えるようになったら、楷書体(かいしょたい)、つまり学校の教科書の書体で正確に書けるまで書き取りのトレーニング、つまり「書き取り練習」をすることです。

(2) 英語は、スペリング(spelling、綴字、つづり字)を美しいブロック体または筆記体で正確に書けるまでにすることです。英語は、単語や語句だけではなく、その単語や語句が用いられている文全体を正確に書けるまでにして下さいね。

(3) 国語は、漢字書き取りだけでなく、大切と思われる語句はすべて書けるようにすること。社会や理科も、大切な語句と語句の意味も書けるようにすること。固有名詞やものの名前、テキストに載っている図表も書けるようにすることが大事です。このように、夏期講習会で習った内容は、全科目ともすべて正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をすることが大切です。

(4) 「音読練習」と「書き取り練習」を熱心にやっている塾生ほど、「学校成績」もよく、「偏差値」も高いことは、開倫塾を 29 年間やってきましたのでよくわかります。いらなくなった紙の裏側を集め、紙が真っ黒になるまで「書き取り練習」を繰り返せば、誰でも偏差値 55 突破は可能です。

偏差値 55 突破は、「音読練習」で何も見ないでスラスラ口について正確に言えるようになった内容について、「書き取り練習」を繰り返して、楷書で正確に書けるようにすることで実現します。

(5) この「書き取り練習」も、「時」と「場所」を選びません。開倫塾の夏期講習会用テキストと「ノート」を常に持ち歩いて、時間があったら、「音読練習」とともに「書き取り練習」も繰り返して下さい。講習会の初日からの分で、一度「書き取り練習」はしたけれどもちょっと忘れてしまったなと思われるところは、念のためにもう何回か「書き取り練習」を繰り返して下さいね。人間は誰でもすぐに忘れてしまいます。忘れることを恐れないこと。忘れる以上に覚える努力をすることを心掛けて下さい。

(6) 偏差値 55 以上の人で、この「書き取り練習」をしていない人は、安心しないで「書き取り練習」も十分にして下さい。実は、偏差値の高い人ほど「音読練習」「書き取り練習」をぬかりなくやっているのです。怠(おこた)っているのはあなただけかもしれませんよ。大学生になっても大学院生になっても、また社会に出てからも、この 2 つの練習は怠りなく確実に行って下さいね。

Q：偏差値60突破の鍵(かぎ)は何ですか。

A：(1)私立中学校入試でも、高校入試でも、大学入試でも、偏差値 60 突破の鍵(かぎ)は変わりません。夏期講習会で学習した「例題」、「計算問題」や「練習問題」を、授業後に、その日の授業を思い出しながら、自分の力で、やさしい問題も含めて、とりあえずもう1～2回やり直すことです。自分にとってはやさしくスラスラ解ける問題も、必ず解き直して下さい。「計算」や「問題」を1～2回やり直すことで「理解」が深まります。

(2)なぜそのような解答になるのかを十分「理解」し、スラスラとよくできるようになった問題は、問題を見た瞬間にパッと条件反射で正解が出るまでにしておくことが大切です。なぜなら、テストの時間は限られていますから、十分「理解」してパツ、パツと条件反射で解答が出せる問題が多いと、テストの時に時間の「ゆとり」が生まれます。その「ゆとり」の時間を、自分にとって少し難しめの問題をよく考えてじっくり解くために用いることができるからです。自分にとって少し難しめの問題をじっくり考えるためには、パツ、パツと解ける問題が多ければ多いほどよい。そうは思いませんか。

(3)パツ、パツと条件反射で答えが出るまでには、最終的には、最低でも5～6回同じ問題を解く必要があると私は考えます。ある進学塾の先生は、10回は必要だとおっしゃっていました。何回同じ問題を練習したらよいかを、御自分でもよく考えて下さいね。

(4)偏差値 60 突破の「鍵」は、開倫塾の夏期講習会用テキストで授業中にやったすべての問題を、5～6回繰り返して行うこと。「計算・問題練習」に尽(つ)きると言えます。問題を解いていて、どうしても解き方がわからなければ、開倫塾の先生に遠慮なく聞いて下さいね。

偏差値が 60 を突破すると大体の学校には合格できますので、こと入学試験についてだけ言えば、選択肢(せんたくし)が大幅に増える、未来が大きく開けると言えます。

(5)偏差値が 60 以上の人、この「計算・問題練習」は丁寧(ていねい)に、丁寧に行って下さいね。成績がよい人ほど結果がはっきり見られるのが、「計算・問題練習」です。

Q：開倫塾の夏期講習会を通じて、偏差値65突破の秘訣は何ですか。はっきり教えて下さい。

A：(1)開倫塾の夏期講習(中学3年生はお盆特訓もあります)では、夏期講習会用テキストのうち、大切なものを中心に授業をします。偏差値 65 突破の秘訣は、開倫塾の夏期講習会用テキストをスミからスミまで、ノートを取りながら完全にやり切ることです。

(2)開倫塾の通年用テキストも、重要なものを中心に授業をしていますので、これについても、今までやった部分だけでよいですから、ノートを取りながらスミからスミまで完全にやり切ることです。もしわからないところがあれば、つまり、「理解」できないところがあれば、先生に遠慮なく質問して下さい。

(3)開倫塾のテキストは、スミからスミまですべてを丁寧にやり抜けば、それだけで偏差値が70以上取れるように編集されています。偏差値 65 以上を目指す人も、全力を傾けて、今までにやったところまででよいですから、開倫塾のテキストをスミからスミまでやり終えて下さい。やってみてどうしてもわからないところがあれば、どうか遠慮なく開倫塾の先生に質

問して下さいね。わからないまま、つまり「理解」不足のまま放置しないことが最も大切です。

以上のような勉強をして、十分「理解」した内容については、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を十分にやり、確実に「定着」を図って下さい。

Q：偏差値70突破は、どのようにすれば可能ですか。

A：(1)開倫塾の夏期講習会用テキスト(中学3年生はお盆特訓用テキストも含む)を、スミからスミまで一人でどんどんノートに予習して下さい。この文章の初めでも述べたように、わからないことははっきりさせてから授業に臨むことです。「予習」の段階で、辞書や参考書、学校の教科書などを用いながら、自分の力で「理解」できるところは「理解」する。

この予習に対する考え方は、東京大学法学部で民法を担当なさった星野英一教授が、法学部の学生に教え続けた勉強方法です。開倫塾の塾生の皆様の大半は、高校卒業後に、大学などの高等教育機関に進学するのですから、今の内から「大学での予習の方法」を身に付けておくことは、大学進学のための大切な準備勉強です。そう考えて私は、この東京大学法学部の星野英一先生の勉強方法を、29年間塾生の皆様にお伝えしてきました。

(2)開倫塾の夏期講習会用テキストの予習を一日も早く終了させて、次に、2～3学期の学習内容を、学校の教科書と開倫塾の通常授業用テキスト(中学3年生はお盆特訓用テキストも含む)を併用して「予習」することを心からお勧めします。

(3)「うんなるほど」と十分「理解」したことは、「予習」の段階で「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返し、知識を完全に「定着」させることが、偏差値70突破を目指す人には求められます。

星野英一先生も、予習はここまでは求めておりません。私が考えた方法です。しかし、一度「うんなるほど」と「理解」した内容は、誰に遠慮することなく「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」をしてしまってもよいと考えます。あまり無理をすることはありませんが、興味のある科目、これだけはきちんとした勉強をしたいという科目だけでも、授業を受ける前に「3大練習」を済ませてしまうことは、素晴らしい試みと私は考えます。

学校を出て社会人となれば、勉強は一人でコツコツとせざるを得ません。先生の授業を受けられるのは学校に在籍する間だけというのは、まぎれもない現実です。「自学自習」できる分野や科目を少しずつ増やすことは、知識を基盤とする現代の社会では欠かせません。また、上級学校に進めば進むほど、自分で勉強することが求められますので、「大学」という最高教育機関で学ぶことを目指す人のよい心掛けと考えます。

(4)学年終了分までの予習が大体終了したら、「過去に出題された問題(「過去問」と開倫塾では略称しています)」を、何年分が実際に解いてみることをお勧めします。「過去問」を自分で解いて、よくわからない問題や間違えた問題があったら、その原因は何か、「理解」が不足していたのか、正確に覚えていないことが原因であったのか、正確に書けないことが原因であったのか、計算練習不足が原因であったのか、問題練習不足が原因であったのかなど、よくわからない問題や間違えた問題につき、その原因を推定したりはっきりさせることが大切です。それ

を、「誤答分析(誤った解答の分析)」と呼んでいます。

(5)「誤答分析」の結果、間違えた原因が推定されたり、明らかになったらどうするか。

「理解」不足であるなら、開倫塾のテキストや学校の教科書、学年別の参考書、授業中にとったノート、辞書などを総動員して、もう一度「うなるほど」と十分「理解」すること。もし、どうしても「理解」できなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問することが大事です。

「定着」が不足して間違えたのであれば、必要な「3大練習」をその分野だけでも徹底的に行ってくださいね。

(6)この「誤答分析」は、偏差値70以上の方だけでなく、偏差値がいくつであっても積極的に行うべきと考えます。間違えた問題をノートに書き写して「間違いノート」を作成し、「間違いノート」を反復学習することも、成績を確実に大幅に上げる上での大切な勉強方法です。

(7)偏差値が70を突破して、自信のある科目については、中学3年生であれば高校生用、高校3年生であれば大学生用テキストや参考書を書店で買い求め、どんどん勉強を進めることもお勧めします。たとえ1科目でもよいから、「次学年の先取り勉強」をどんどん進めましょう。

(8)自分の例を引いて恐縮ですが、私は社会科が大好きでしたので、中学3年生の1学期には、現在の公民だけは中3生の教科書を自分なりに勉強し終わりました。夏頃からは、高校3年生の「政治経済」の参考書を買って、勉強していました。高校に入りしばらくしてから、大学生用「憲法」や「経済学」、「国際関係論」のテキストや参考書、新書本を買って、一人でずっと読んでいました。お陰で、大学入試の全国規模の模擬試験では、1科目だけですが全国でも1ケタ。偏差値も70を越えた覚えがあります。

(9)受験勉強に遠慮は一切無用です。好きな科目、よくできる科目は、先の学年、先の学校で勉強する内容にまで踏み込むことをお勧めします。首都圏の中高一貫校では、中学3年生終了までに高校1年の内容を終了させ、高校2年生終了時には高校の全内容を終了させることが多いことは、まぎれもない事実です。1年分くらい先の勉強まで終了させる科目がいくつかあることは、大学入試を考えると大切なことです。遠慮はいらぬどころか、遠慮していると首都圏の中高一貫校の生徒に大きく差をつけられてしまうことも、ぜひ頭のどこかに入れておいて下さい。

Q：偏差値の上げ方は大体わかりました。自分一人ではなかなか勉強できないのですが、どうしたらよいでしょうか。

A：開倫塾では、やる気のある塾生の皆様に、使用していない机や椅子(いす)を、自習用として無料で使用を許可しています。希望者は保護者の許可をいただいた上で、開倫塾の先生に御相談下さい。ただし、おしゃべりや飲食、メール、ゲーム、マンガなど勉強に関係のないことは絶対禁止です。先生や事務職員が校舎にいる時間、夜10時30分まででしたら、何時間勉強してもOKです。やる気のある人は、夏休み中、毎日でも勉強をしに来て下さい。この自習のシステムは、やる気のある人のためのものです。やる気のない人は一切お断りです。勉強は自己責任・自助努力であるものを十分自覚した人は、大歓迎です。



Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)「学力」向上の前提には、2つあります。

その1つは、「勉強の仕方」についてのスキル(能力)が身に付いているかどうかです。まずは、自習や授業でよく「理解」する。ノートもよく取る。次に、よく「理解」した内容について、テキストやノートの「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を繰り返して知識を確実に身に付ける、「定着」させる。よく「理解」した知識を確実に「定着」させたら、「過去の問題例」や「予想問題」を活用して、「応用力」つまり「得点力」を強化する。「勉強の仕方」はいろいろあると思いますが、その1つとして、この方法も参考にして下さいね。

「学力」向上の前提として、「幅広い読書」も大切です。大切なのは何を読むかです。学校の教科書で紹介されている本や学校の図書室・県や市町の公立図書館の本は、安心して読めます。各分野の代表的な本(著作)を、ゆっくりと、よく考えながら熟読することで、「考える力」が少しずつ身に付きます。大切な本は5～6回読み返す。心に触れた文章は「書き抜き読書ノート」に書き写し、折に触れて読み直すことです。

この夏休みから、昨日の新聞を家の人からプレゼントしてもらい、一面から「なめる」ようにゆっくり読むと、薄い本なら1冊分くらいの文章を読んだことになります。また、世の中の動きもよくわかります。「新聞を読んで考える」ことも大切な勉強です。10月には「新聞週間」があります。夏休み中に新聞を毎日読む習慣を身に付けて、2学期を迎えるようにしましょうね。

(2)夏休みは家や地域にいる時間が長いわけですから、いくら受験生とはいえ、家族の一員、社会の一員としての役割を果たしながら生活することが大切です。

自分のことはできるだけ自分ですることはもちろんのこと、家事を分担して、どんなことでもよいですから、できるだけ「手伝い」をしましょう。

地域社会の一員として、どんな小さなことでもよいですから、みんなのため、社会のためになることをするように心掛けましょう。

自分で行きたい学校を1日も早く決めること。夏休みの間か、あるいは2学期に入ったら行きたい学校を何度か訪問して、具体的な学校のイメージを持ちながら勉強することをお勧めします。

\*夏休みの間にいくつかの学校を訪問し、見学させていただくことも、よい夏休みの過ごし方と考えます。

\*受験学年以外の皆様も、学校の具体的なイメージを掴(つか)むために、「オープン・スクール」や「学校公開の日」などを活用して、いくつかの学校訪問に行ってください。

- 7月18日記 -

資料 6

開倫塾では、7月に栃木県のNASU地区に3校舎を新たに開校させていただきました。この文章は、その開校式での私のあいさつです。開倫塾の大切にしたいもの、その基本方針はどの校舎でもすべて同じですので、御確認のため是非御一読下さい。

「一生勉強、一生青春」は、私の家の前を散歩なさっておられた足利市在住の書家相田みつを先生がお残しになったことばの中で、私の一番好きな言葉です。

開倫塾 NASU ブロック  
開設式あいさつ資料

2008年7月2日(水)  
12:00 ~  
矢板イースタン・ホテル

「塾生の人生における成功に貢献」を目指して  
- 開倫塾で大切にしたいものとは -

開倫塾  
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 明年10月に創塾30周年を迎える開倫塾は、お陰様で、この度、栃木県北部にNASUブロックを開設、矢板校、大田原校、黒磯校の3校を同時に開校するに至りました。
- (2) これは、偏(ひとえ)に、地域の皆様の御理解・御協力、開倫塾に貴重な不動産をお貸し下さった家主様の御理解・御協力、そして、今日ここにお集まりのNASUブロックを担当する社員の皆様ならびにNASUブロックを支える全社員の皆様の御理解・御協力の賜(たまもの)と、開倫塾全体の経営責任者として心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

2. 開倫塾で大切にしたいものとは - 「塾生の人生における成功に貢献」を目指して -

- (1) 開倫塾は、塾生の「学校成績の向上」と「希望校合格」という業務内容を、学習塾として当然持ち、この2つは必ず成し遂げなければなりません。結果を出さなければ、自らの仕事をしたことにならないし、誰からも評価されず、校舎は閉鎖、開倫塾は倒産の運命が必ず生じます。塾生、保護者、地域社会が学習塾に最も期待する、塾生の「学校成績の向上」と「希望校合格」を、自らの生存を懸けてどんなことをしても成し遂げなければなりません。
- (2) ただし、開倫塾は、教育の成果として単に学校の成績を向上させること、希望校に合格させることだけを目指すのではなく、非常に困難であるかも知れませんが、「塾生の人生における成功」と「持続可能な社会の形成」に貢献することも、これに加えて希望します。その理由は、単に「学校成績を向上させればよい」、単に「希望校に合格させればよい」という指導に終始しますと、「ここが出題されるから、ここだけ覚えておけばよい」「この問題が出たら、このように答えればよい」という解答のテクニック、受験のテクニックが教育の大半を占めてしまい勝ちになるからであります。勿論、試験、とりわけ入学試験の直前にはそのような技術面の指導も大切であり、その重要性を軽視するものではありませんが、非受験学年や、受験学年でも受験までに期間がある場合には、開倫塾の「学習の3段階理論」に基づいた段階を踏まえた丁寧な学習、指導が求められると確信します。

### 3. 「塾生の人生における成功に貢献」を目指す「学習の3段階理論」とは

- (1) 折角、「学校成績の向上」「希望校合格」を目指して開倫塾で一所懸命に(一つの所で命を懸けるくらい熱心に)勉強するのであれば、「成績さえ上がればよい」「合格さえすればよい」という態度で、塾生は勉強するのではなく、また、先生は指導するのではなく、上級学校に進学したときに役立つように、更には社会に出てから死ぬまで一生涯役に立つようにすべきだと考えます。
- (2) そのためには、自学自習や学校・開倫塾の授業中に「うんなるほど」と「十分納得する、腑に落ちる」、つまり「理解」することが第一。次に、「うんなるほど」と十分「理解」したことを「何も見ないでスラスラ言えるまで音読練習をすること」、「何も見ないで楷書で正確に書けるまで書き取り練習をすること」、「問題を見た瞬間に正解が出るまで計算・問題練習をすること」で、学力を「定着」させることが第二。十分「理解」したことを、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「三大練習」で「練習、練習、また練習」を繰り返すことにより、学力を「定着」させた後にはじめて、過去に出題された問題(過去問)と予想問題を「問題練習」して「応用力」をつけ、合格点を取ること、社会に出てそれらを「応用」するのが第三であります。
- (3) この「学習の3段階理論」に基づいて正確に身に付けた「学力」は、たとえ「学校成績の向上」「希望校合格」の目的で成し遂げた学習であっても、上級学校に進学した後も十分に役立つばかりか、社会に出てからも死ぬまで一生涯にわたって役立つものであり、塾生の人生の成功に貢献する学力であると確信致します。
- (4) このような形で、たとえ「学校成績の向上」や「希望校合格」のための学習であっても、「理解」「定着」「応用」と「学習の3段階理論」をしっかり踏まえた上で身に付けた学力を有する人が多ければ多いほど、持続可能な社会が形成される可能性が大きいと確信致します。
- (5) 「学習の3段階理論」を踏まえて着実に学力を身に付けることは、「学校成績の向上」と「希望校合格」という学習塾への期待に応えるだけでなく、「塾生の人生の成功に貢献すること」、「持続可能な社会の形成に貢献すること」にも直結するものであります。

### 4. これからの社会で求められる、3つの「鍵となる大切な基本的能力(キー・コンピテンシー)」とは

- (1) 自律的に活動できる能力(高い志を持ち、志を持続させ、自分自身を律しながら活動する能力) ...開倫塾の教育目標「高い倫理」に該当。
- (2) 異なった集団で交流できる能力(多様な価値観、文化的背景、言語習慣を持った人々と共に活動できる能力)...「高い国際理解」に該当。
- (3) 知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力(学校や社会で身に付けた知識等を十分活用できる能力)...「高い学力」に該当。
- (4) この3つの「キー・コンピテンシー」を実現するために欠かせないもの  
“ Learning To Learn ” (学び方を学ぶ、「学習の学習」)のスキル...開倫塾の教育目標「自己学習能力の育成」に該当。

「読書量」(読書によって培われる熟慮する力、自分をふり返る力が、学力を決める)...「本を読んで考える」、「新聞を読んで考える」

(5)OECD の PISA(15 歳時の国際学力調査)の基底となる学力観である「キー・コンピテンシー」の 3 つの内容と、それを支える 2 つの要素は、開倫塾の教育目標と合致していると考えられる。

## 5 . おわりに

### (1)開倫塾はチームプレイ

チームプレイとは、自分のポジションは誰にも頼らず自分で守り抜く。

議論は自由、決めるのは責任者が一人で。

「耳に痛いことを言う人は尊い」(自由に発言を)

責任者は丁寧な説明を(説明責任 accountability)

### (2)健康第一(心の健康、身体の健康)

\*夜 11 時以降の勤務は「絶対禁止」

### (3)ルールの中でのプレイを

セクシズム	} のないように
レイシズム	
エイジズム	
法令違反	

### (4)研修の目的は empowerment(エンパワーメント)

能力強化

権限委譲

### (5)「一生勉強、一生青春」(相田みつを先生)

- いつまでも若々しく生きる -

以上

これからもよろしく願い申し上げます。

## 資料 7

この文章は、日本銀行出身の私の知人がお書きになったものです。これから、日本や世界が進むべき道が示されていると思いますので、参考までに御一読下さい。

日本経済新聞 6月14日「大機小機」「恵海」氏執筆  
雇用「フレキシキュリティー」を読む

連続して起きている「通り魔事件」などの社会的背景の1つとして、不安定な雇用状況を主因とする極度の精神的不安が指摘されている。

総務省統計局によると非正規雇用者は1996 - 2007年の間に約690万人増加(正規は約360万人減)、07年の総雇用に占める比率は33%、女性では53%にも達する。こうした大量の正規雇用から非正規雇用への転換は、企業の賃金コストと社会保障負担を減らし、企業収益の回復に大きく貢献した。

しかし雇用者側に生じた事実は、いつ解雇されるかわからない、低い賃金、将来の生活設計も立てられない、努力を重ねても正規に転換できない絶望感など、精神面を含め極端に不安定な状況である。辛うじて正規雇用に残った人々も猛烈な残業、名ばかり管理職など荒廃した環境の中で孤立感を深めている。

一家の柱の雇用不安は家計の不安定を引き起こし、給食費・授業料の不払い、多重債務者の増加、母親への過剰負担、子供たちの不安定性などをもたらし、国家の最重要の構成員である家計の崩壊を助長している。家計の崩壊はコミュニティーの荒廃や犯罪の増加にも関係してきている。

非正規雇用者の急増による労働コストの削減は、厳しいグローバル競争に生き残るために不可欠、との説は本当だろうか。日本企業が厳しい競争に勝ち抜く方策は、労働コストの削減によって低付加価値商品の世界シェアを確保することではなく、高度な技術に基づく高付加価値商品で世界市場を開拓することであるはずだ。

日本企業は元来、会社は従業員を含めたステークホルダー全体のもの、との哲学に基づき景気循環には実質賃金の柔軟性で対応し、安易な雇用削減を回避してきた伝統がある。浅薄な経営論に便乗し、有能な従業員を切り捨て、社会保障負担を国に押しつけ、技術開発を怠り、株式時価総額の最大化こそが企業の目的だと叫び続けてきた経営者は猛反省すべきだ。

雇用が柔軟性(フレキシビリティ)と安定性(セキュリティ)を兼ね備えた「フレキシキュリティー」でなければならないことは自明の理である。国家百年の計を思えば貴重な59兆円を道路建設のみに用いてはならない。研究開発や正規雇用創出のために応分を振り向け、新しい展望を示すことが世界の信頼を得る道だ。

(コメント)

雇用「フレキシキュリティー」に最も熱心に取り組んでいるのが、デンマークである。その結果、デンマークは失業率1.8%を達成した。(林 明夫)

- 2008年7月1日 -

おわりに

今月も長い文章を最後までお読みいただき有難く感謝申し上げます。

開倫塾の願いは、唯一つだけです。「学校成績の向上」や「希望校合格」のための勉強をしている間に、上級学校や社会に出てからも役に立つ自分なりの「勉強の仕方」(例えば「理解」「定着」「応用」)を身に付けて、充実した人生を送ってもらいたい、皆様の「人生の成功」に貢献したいということだけです。

暑い日が続きますので、健康にお気を付けて元気にお過ごし下さい。

感謝

- 7月22日記 -